（参考）

北陸の大豆をめぐる事情

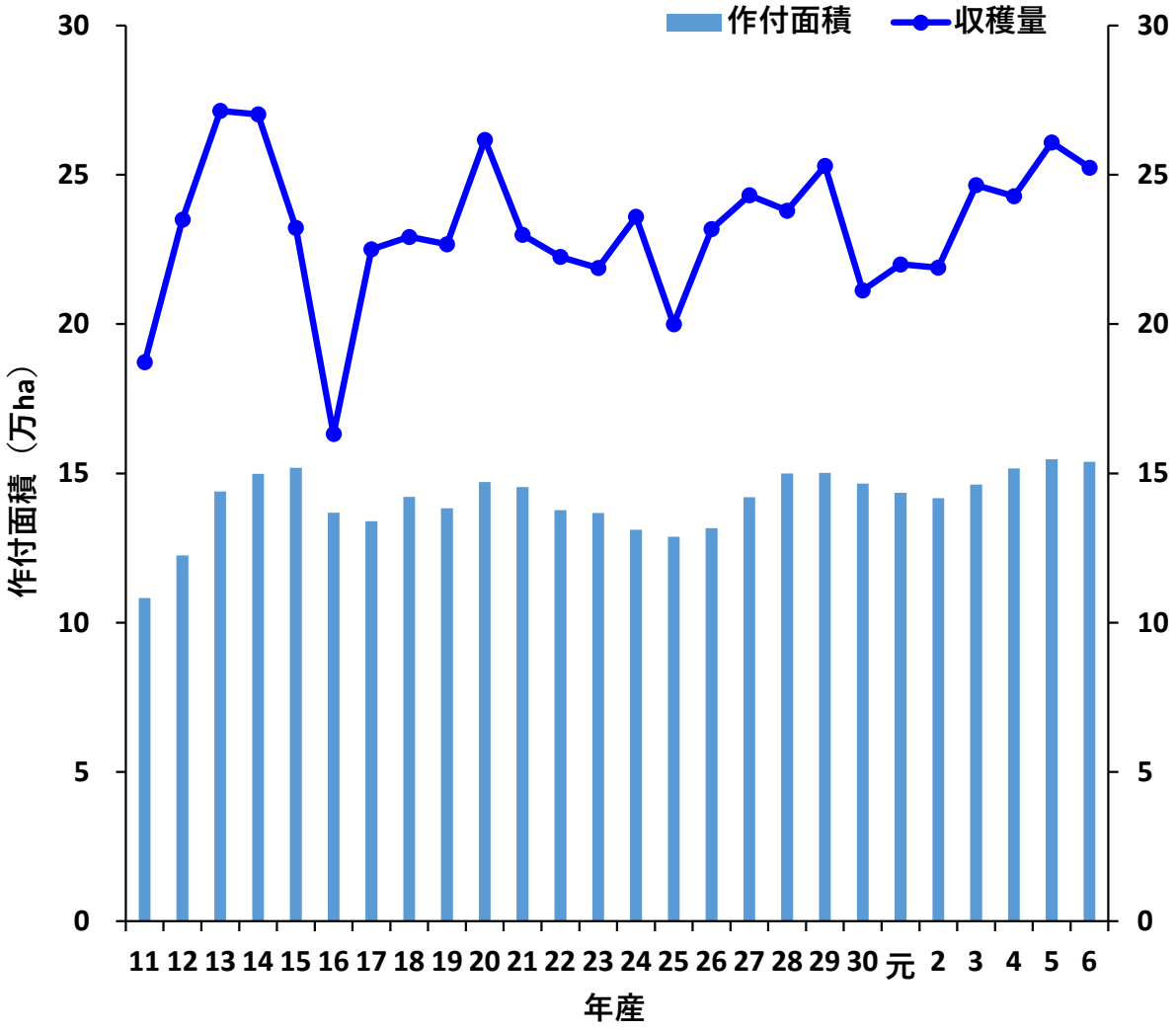
令和７年８月

北陸農政局生産部

1．大豆の作付動向と収穫量（全国）

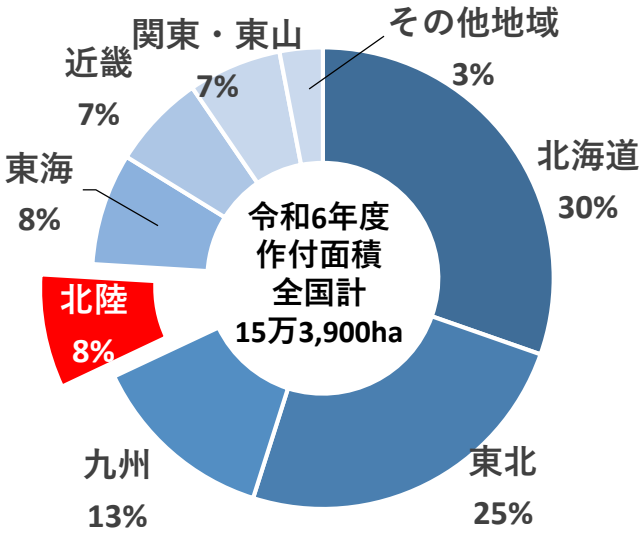
○　全国における令和６年産の作付面積は153,900haであり、前年産に比べ800ha減少。また、令和６年産の収穫量は252,400tであり、前年産に比べ8,400t減少。
○　北陸地域における令和６年産の作付面積は12,300haであり、全国の約８％を担っている。

◆大豆の作付面積と収穫量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「作物統計」

◆令和６年産の大豆作付面積（地域別割合）



◆令和６年産の大豆作付面積（上位５県及び北陸地域）

（単位：ha）

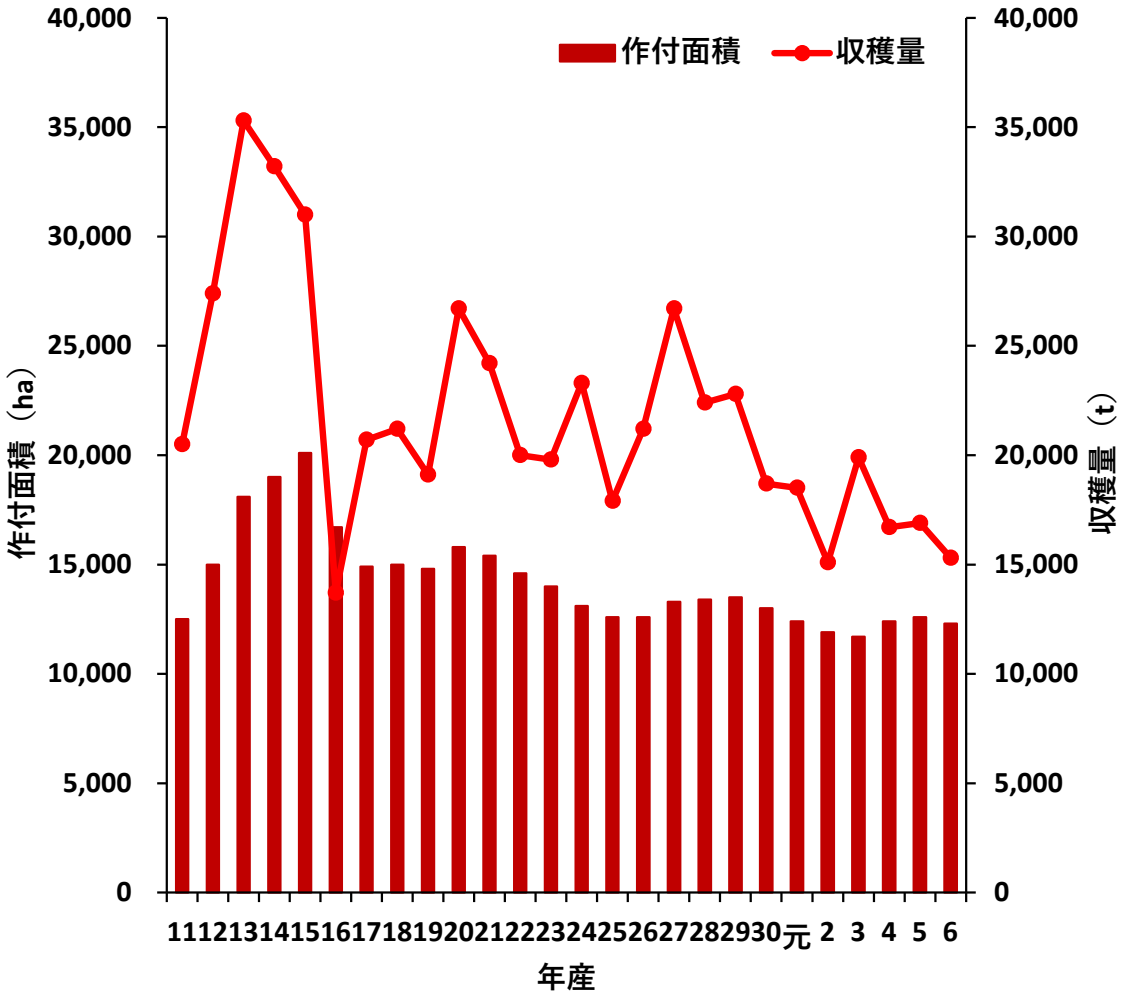
順位	都道府県	作付面積
1	北海道	46,800
2	宮　城	11,600
3	秋　田	9,260
4	福　岡	8,040
5	滋　賀	7,350
⋮	⋮	⋮
11	富　山	4,550
12	新　潟	4,230
⋮	⋮	⋮
20	福　井	1,850
21	石　川	1,650

資料：農林水産省統計部「作物統計」

２．大豆の作付動向と収穫量（北陸地域）

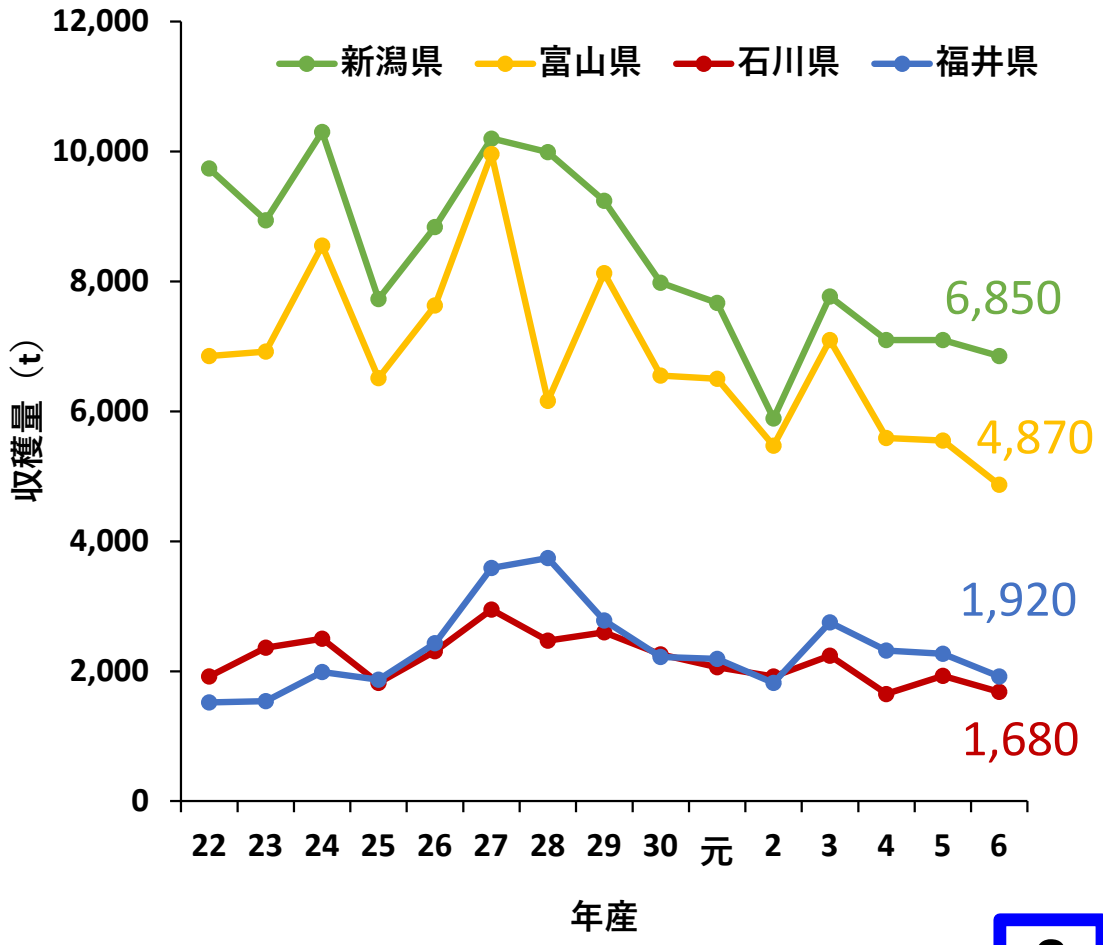
○　北陸地域における令和６年産の作付面積は12,300ha（新潟県4,230ha、富山県4,550ha、石川県1,650ha、福井県1,850ha）であり、前年産に比べ300ha減少。
○　収穫量は、気象条件等の影響により年次変動が大きく不安定な状況。北陸地域における令和６年産の収穫量は15,300ｔ（新潟県6,850ｔ、富山県4,870ｔ、石川県1,680ｔ、福井県1,920ｔ）であり前年産に比べ1,600t減少。

◆大豆作付面積と収穫量の推移（北陸地域）



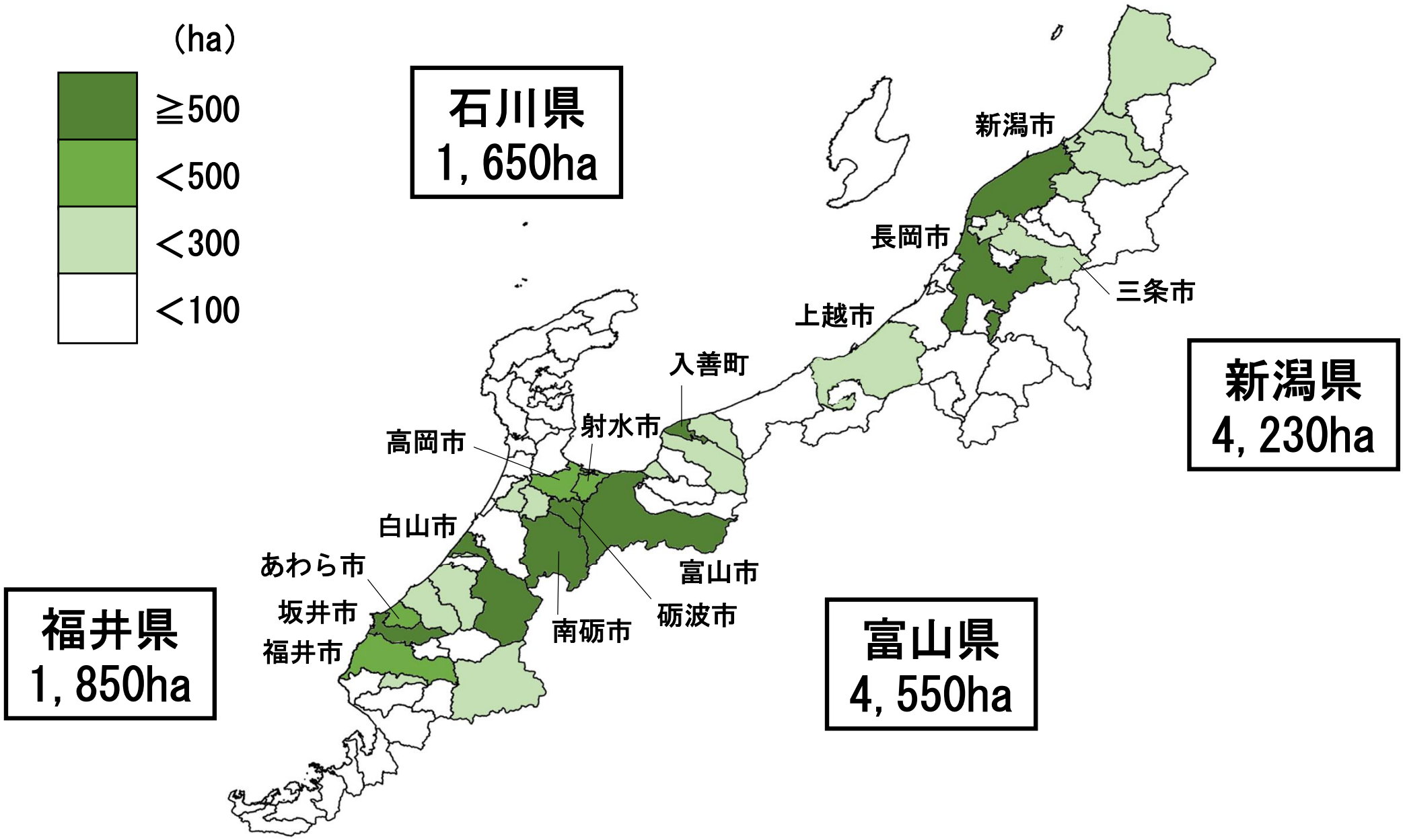
資料：農林水産省統計部「作物統計」

◆大豆収穫量の推移（北陸地域）



資料：農林水産省統計部「作物統計」

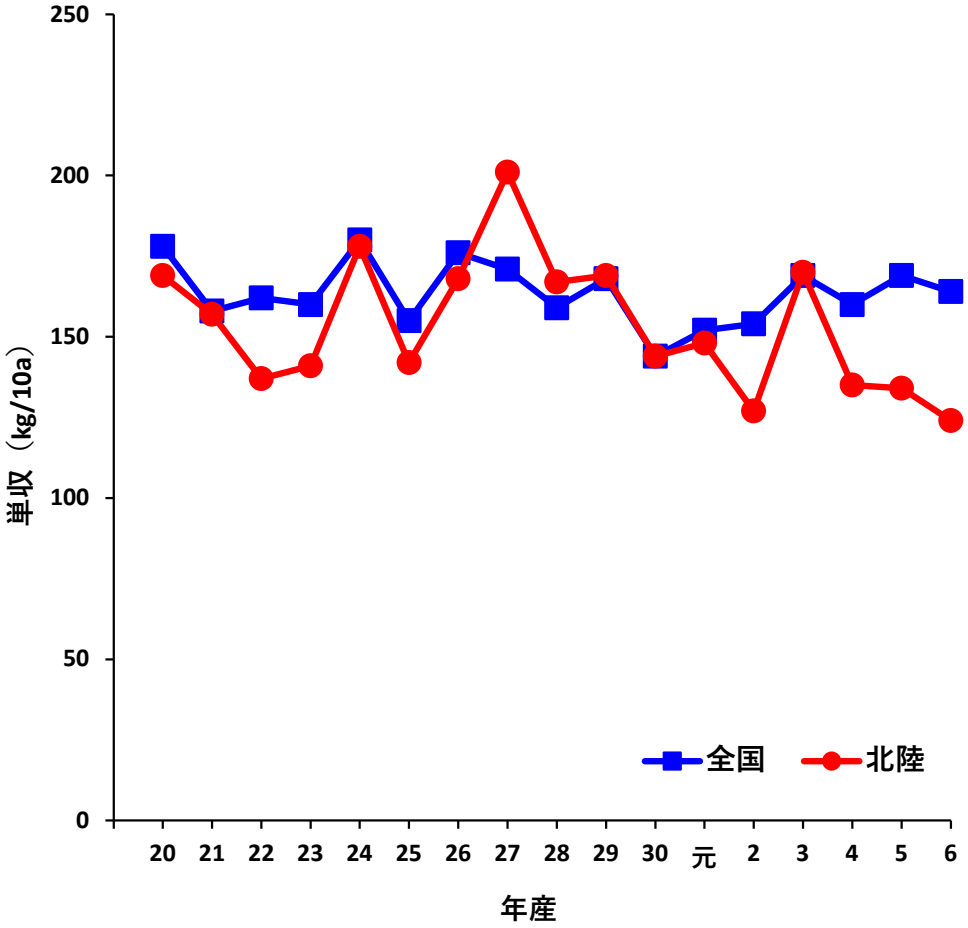
３．北陸地域の大豆の主要産地（令和６年産）



４．大豆の10a当たり収量（北陸地域）

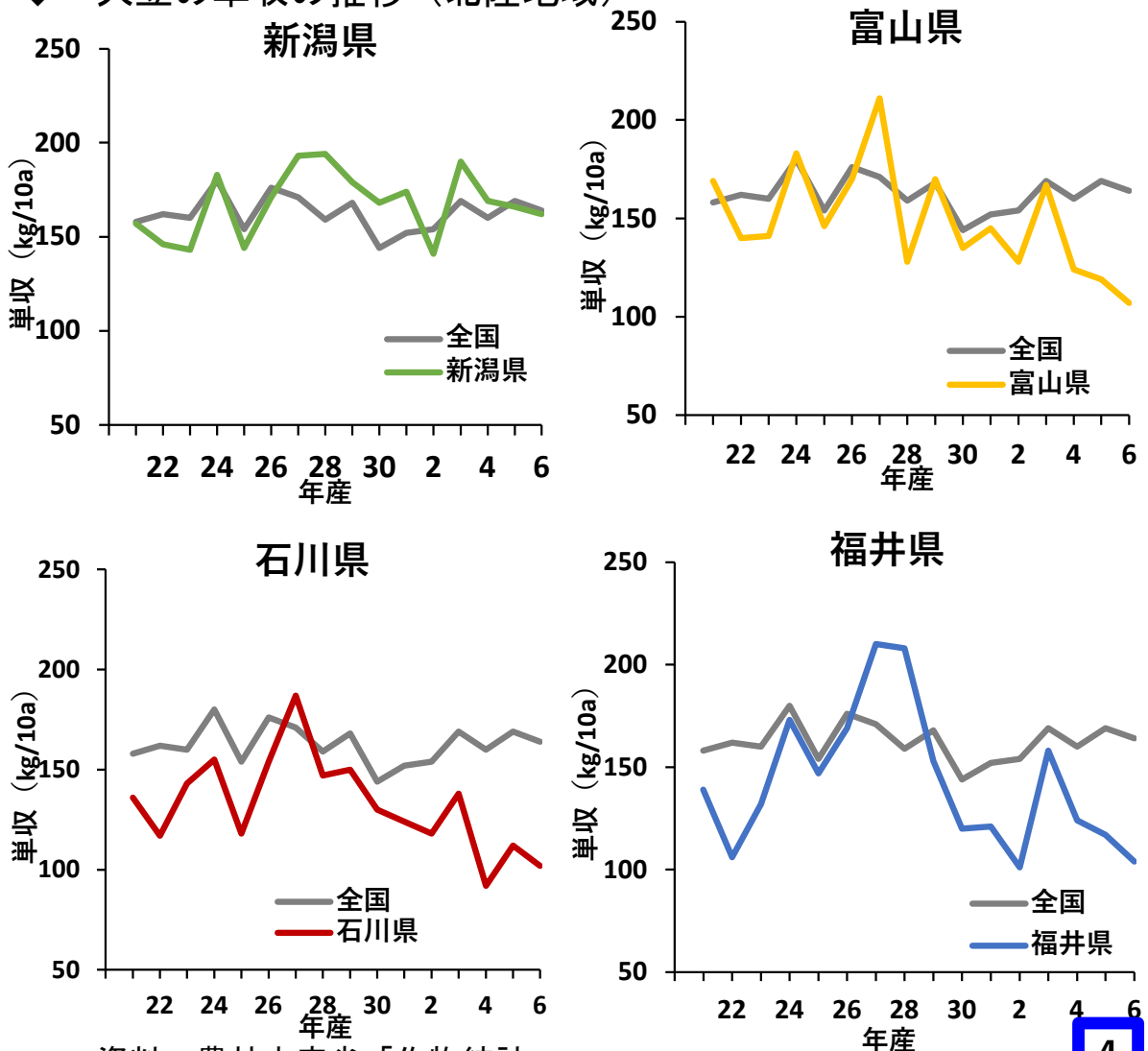
○　「食料・農業・農村基本計画」における大豆の生産努力目標(R12)は39万ｔであり、目標の達成には、単収の上昇が必要であるが、北陸地域では気象条件等の影響により、年次変動が大きく不安定な状況。
○　北陸地域における令和６年産の単収は124kg/10a(新潟県162kg/10a、富山県107kg/10a、石川県102kg/10a、福井県104kg/10a)であり、前年産に比べ７%減少。全国の単収は164kg/10aであり、前年産に比べ３%減少。

◆　大豆の単収の推移（全国及び北陸地域）



資料：農林水産省「作物統計」

◆　大豆の単収の推移（北陸地域）

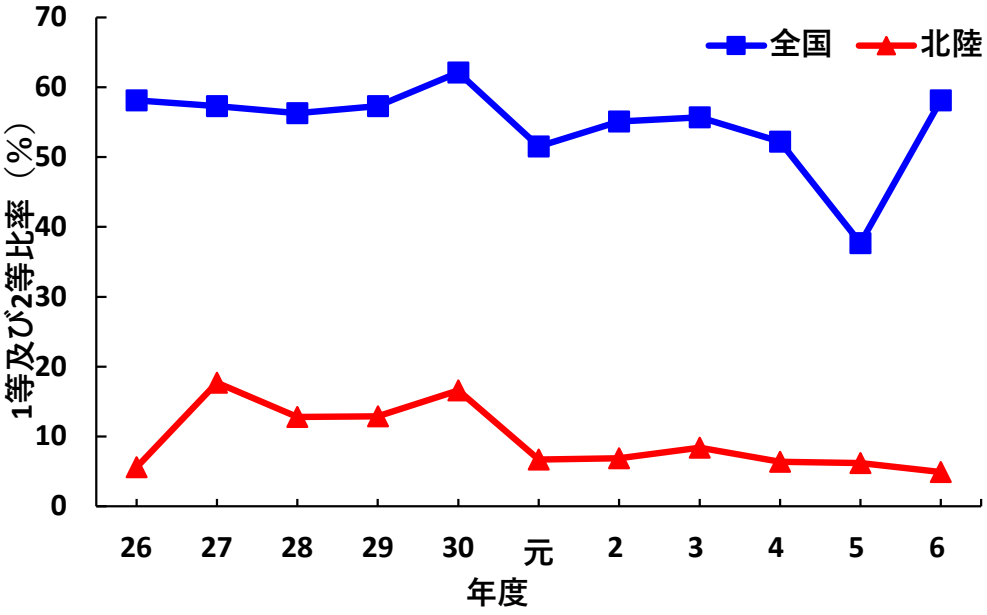


資料：農林水産省「作物統計」

５．大豆の品質（農産物検査結果）

○ 北陸地域における令和６年産（速報値：令和7年1月31日現在）の大豆の１・２等比率は4.9%であり、全国平均である58.1%と比較して大きく下回っている。

◆大豆の1・2等比率の推移（全国及び北陸地域）



令和６年産大豆検査結果（北陸地域）

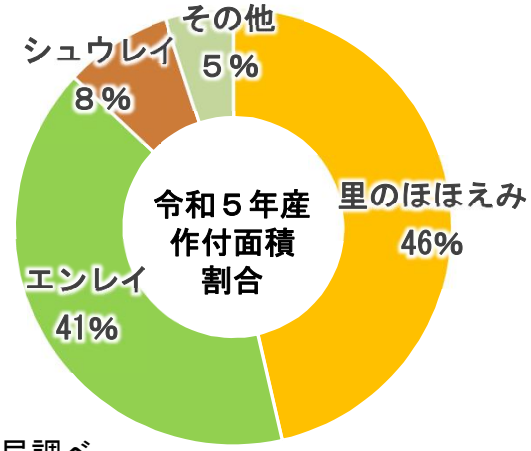
	検査数量 (t)	普通大豆 (%)				特定加工用大豆 (%)	種子大豆 (%)
		１等	２等	３等	規格外	合格	合格
北　陸	14,624	1.8	3.1	16.0	3.8	75.2	0.1
新潟県	6,591	3.8	4.9	20.2	2.1	68.7	0.3
富山県	4,699	－	0.1	7.7	6.7	85.5	－
石川県	1,503	－	1.8	4.9	2.1	91.2	－
福井県	1,831	0.5	5.2	31.0	4.1	59.2	－

注：普通大豆の規格外に、特定加工用大豆の規格外を含んでいます。
資料：北陸農政局調べ（令和６年産は、令和７年１月末現在）

６．大豆品種別の作付状況（北陸地域）

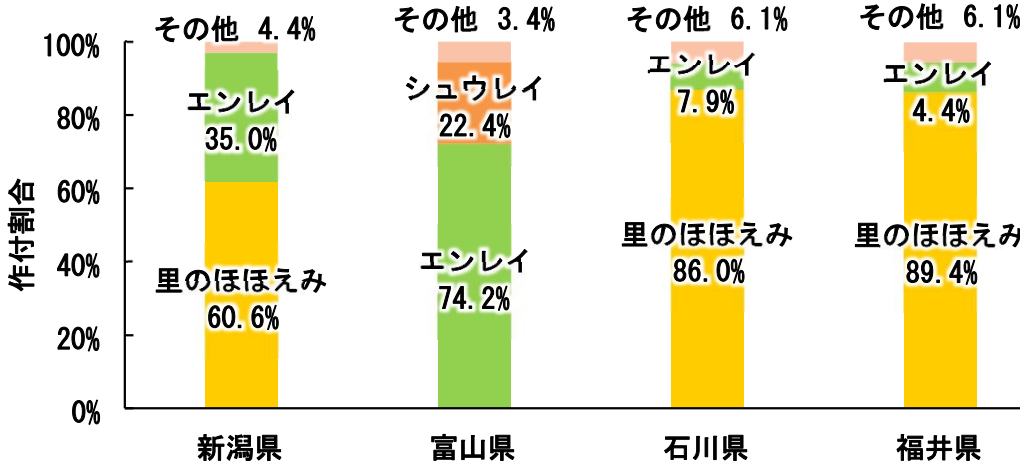
○　北陸地域における令和５年産の大豆品種別の作付状況を見ると「エンレイ」及び「里のほほえみ」がほとんどを占めている。これは、新潟県、石川県、福井県において「エンレイ」から「里のほほえみ」への作付転換が進んでいることによる。
○　また、富山県では令和２年産から「エンレイ」に難裂莢性を導入した「えんれいのそら」への全面切り替えを実施。

◆北陸地域における大豆作付品種（令和５年産）



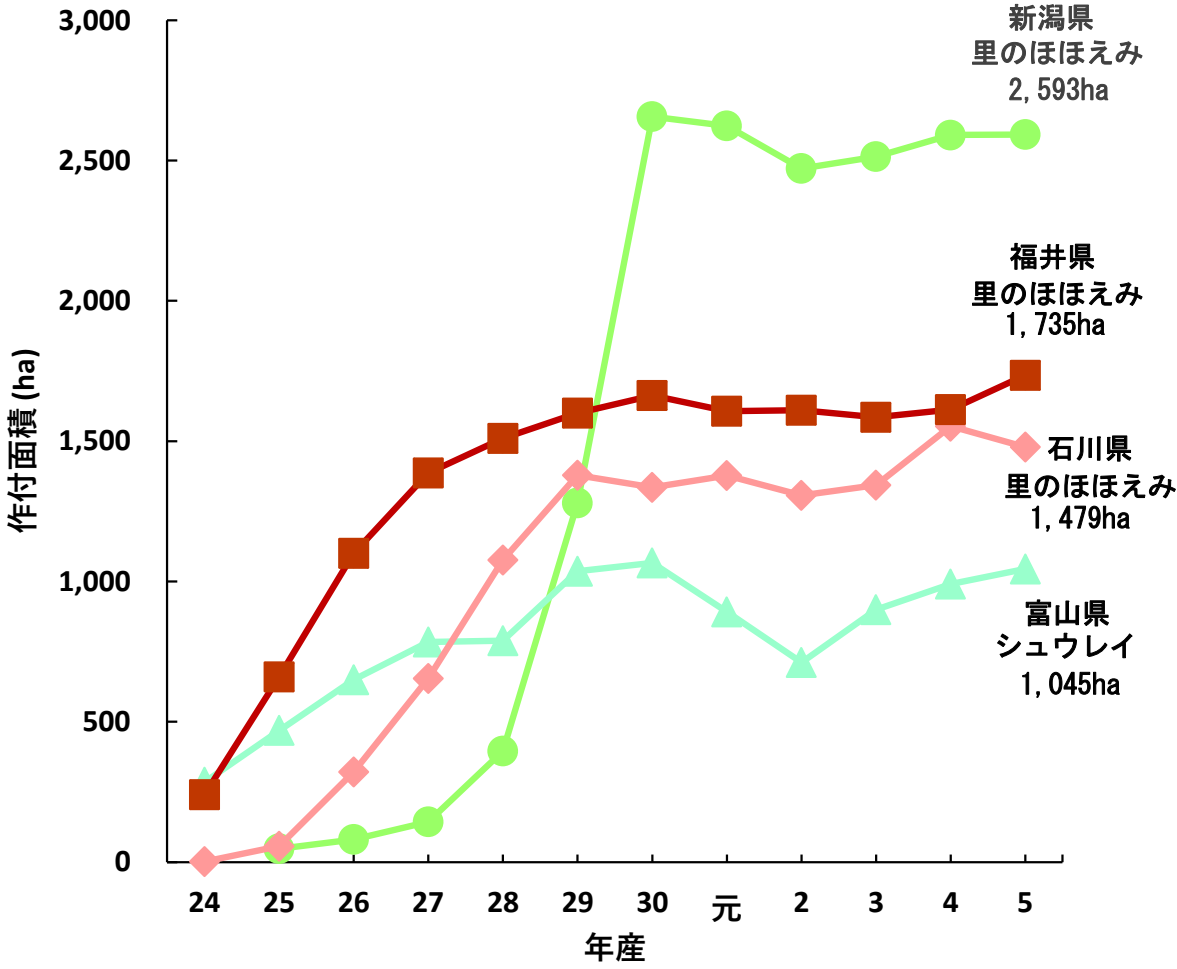
資料：北陸農政局調べ

◆北陸各県の大豆品種ごとの作付割合（令和５年産）



資料：北陸農政局調べ

◆北陸各県の新品種の導入状況

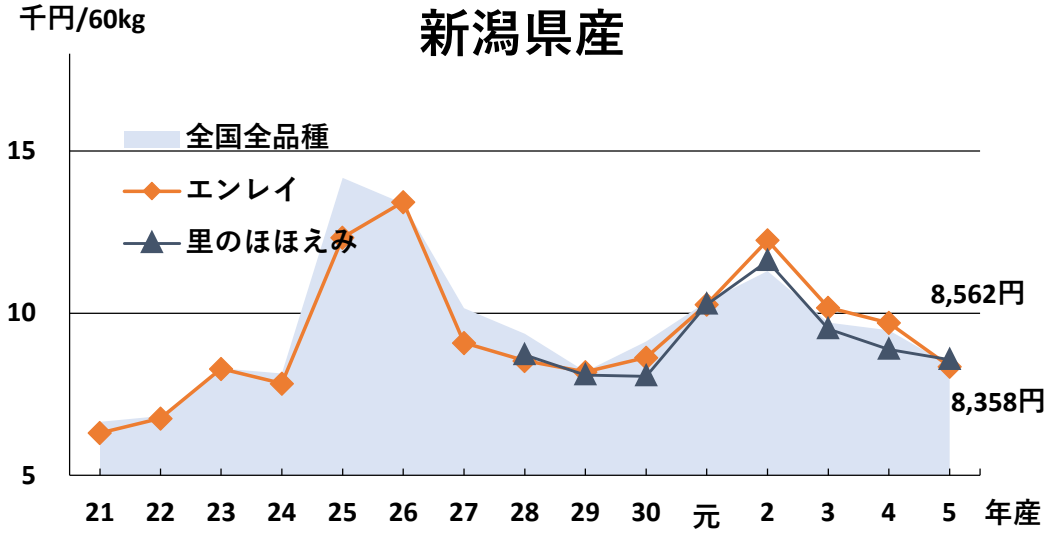


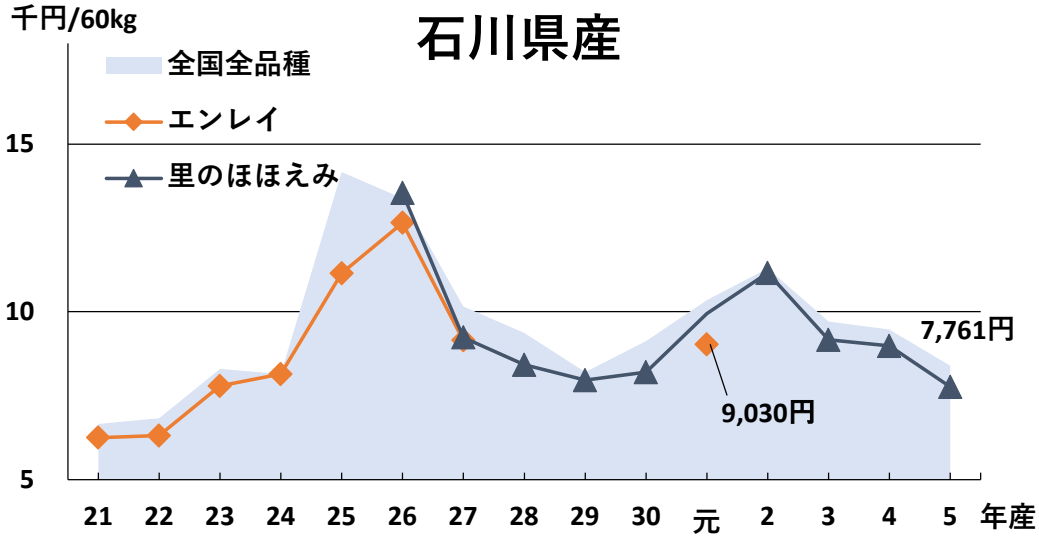
資料：平成24～25年産　政策統括官付穀物課調べ
平成26～令和5年産　北陸農政局調べ

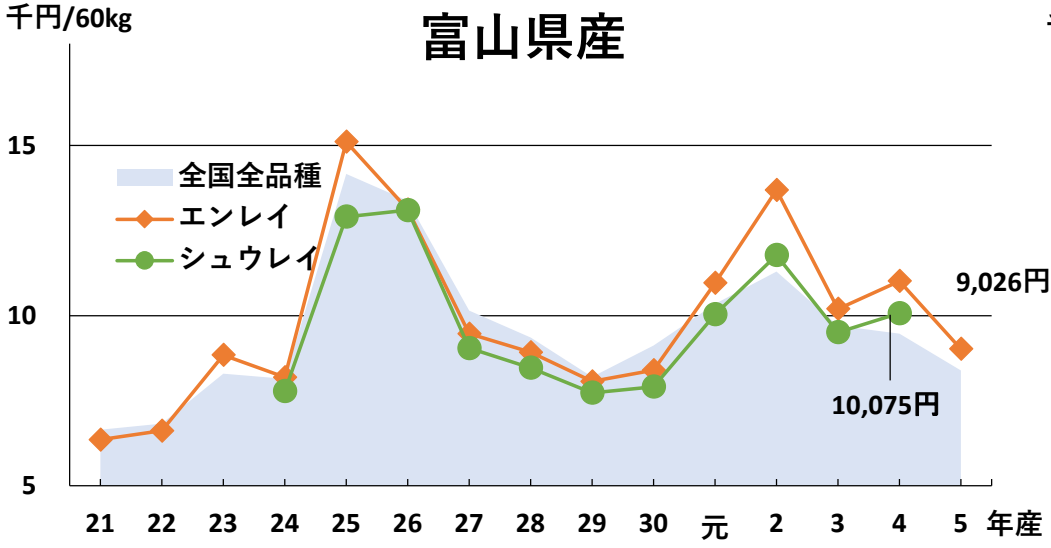
7. 大豆の入札取引価格の動向（北陸地域）

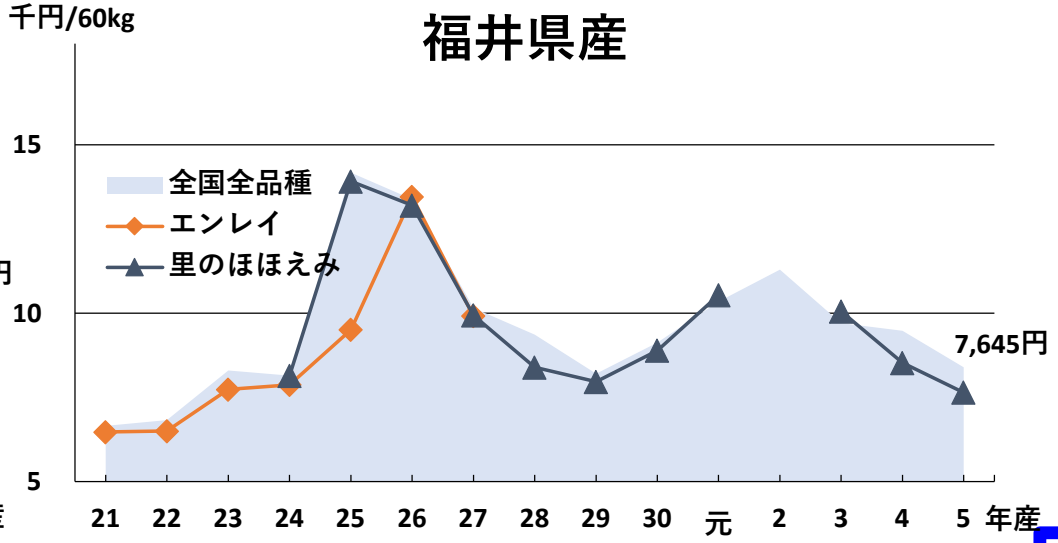
○ 北陸地域における令和５年産の主要な大豆品種の平均落札価格は7,645～9,026円/60kgであり、令和４年産に比べ▲318～▲1,991円/60kgで推移。なお、平成25、26年産は台風の被害等により生産量が減少し、価格が急上昇している。

◆大豆の落札平均価格（全国及び北陸地域）









注：各県産の落札平均価格は、普通大豆（大粒・中粒）･特定加工用大豆（大粒・中粒）の落札価格の加重平均により算出。
資料：(公財)日本特産農産物協会大豆入札取引結果より

８. 北陸大豆の課題・対策

【現状：令和６年産】

〇全国153,900haに対し、**北陸地域では12,300ha**と全国シェアは低い（約8%）。

〇**富山県**（4,550ha、うち田100%）及び**新潟県**（4,230ha、うち田96%）の**2県 で、北陸の7割**。

【課題】

【生産】

〇　収量は、

1　気象条件（高温、降雨、乾燥）

2　湿害（発芽率の低下等）

3　雑草による土壌養分吸収やダイズ黒根腐病等による被害

4　成熟期の高温、肥料過多等による青立ち、しわ粒の発生

により低下する傾向（品質も同時に低下）

【販売】

〇　実需者が求める用途別の「品質」と「量」を把握し、実需者ニーズを踏まえた継続的な安定供給体制まで至っていない。

〇　全農（県本部、JA）への出荷のため、農家に実需者ニーズが届きにくく、作付拡大のインセンティブがない。

※主に豆腐用として、全農県本部等を通じて販売。

【対策】

【生産】

〇　収量確保のためには、基本技術（①排水対策、②播種期、③防除期）等に加え、品種にあった適切な肥培管理が必要。

1　土壌分析による施肥設計を行うとともに、有機資材等による土づくりを実施。なお、耕起、施肥、播種の一連の作業は、好天日に実施。

2　適期収穫や気象災害の分散・軽減等を図るため、10月に収穫可能な「エンレイ」や「里のほほえみ」などの品種を導入。

3　特に、青立ち、しわ粒発生抑制のための技術指導や横展開。

4　一定の品質・数量を確保し、作業効率を図るため、団地化も必要。

【販売】

〇　国産大豆を活用する実需者との結びつきを拡大するとともに、品質・量・価格等の実需者の要望を満たし信頼される大豆産地づくりが必要。

→地場産大豆の品質・特性をPR、実需者とのマッチングと大豆産地の団地形成を推進）

９．大豆の需要拡大に向けて

○今後の食用大豆需要見込みについて実需者にアンケートを実施した結果、全ての業界を通じて、今後の５年間の大豆使用量は増加見込み。実需者から、供給量の拡大が求められています。

	R5年度実績数量（千トン）		R6年度需要見込み		R7年度需要見込み		R11年度需要見込み	
		うち国産		うち国産		うち国産		うち国産
全体	**1,029**	**247**	**104%**	**108%**	**106%**	**113%**	**111%**	**131%**
豆腐・豆乳			105%	105%	109%	110%	122%	143%
納豆			106%	106%	104%	107%	106%	110%
煮豆			106%	105%	106%	105%	110%	109%
味噌			101%	142%	101%	168%	96%	169%
醤油			100%	112%	100%	131%	101%	142%

※　Ｒ５年度実績数量は「食料需給表」を基に、穀物課推計。
※　Ｒ６年度以降の需要見込みは各業界団体からのアンケート結果（豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ：n=133）を基に、穀物課推計。
「全体」では、豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油のほか、きなこ、油揚げ等を含む。なお、需要見込みについては、Ｒ５年度の実需者実績を基準とした比率を示す。

○北陸農政局の取組

大豆生産においては、実需者と産地が連携し、需要に応じた体制づくりをしていくことが重要。
北陸農政局では、実需者と産地とのコミュニケーションの場として、北陸大豆サロンを開催しました！

↑北陸大豆サロン（オンライン）

９．「北陸麦・大豆サロン～北陸麦豆ホップステップ、その先へ…！～」

水田の比率が高い北陸地域において需要に応じた麦・大豆生産を推進するために、実需者等からの声を届けるとともに、北陸地域の麦・大豆栽培上の課題克服に向けて情報提供及び意見交換を行う。**「北陸麦・大豆サロン～北陸麦豆ホップステップ、その先へ…！～」を令和7年１月29日（麦）及び2月4日（大豆）にオンラインにて開催。**

北陸麦大豆サロン

北陸麦豆ホップステップ、その先へ…！

開催日時

麦 1月29日（水） 14:00～16:30

大豆 2月4日（火） 14:00～16:30

※事前申込制

開催方法 オンライン（Microsoft Teams）

どなたでも気軽にご参加いただけます

参加無料

麦プログラム（1/29）

はじめに ・全国及び北陸地域の麦をめぐる状況について（農林水産省）

生産者からの話題提供

農事組合法人第四生産組合 理事 **竹野 勝行** 氏（新潟県弥彦村）

新潟小麦の会の活動に参加し、積極的な情報収集により実需者の求める需要量・品質等を確保。団地化の推進や営農技術・機械導入による生産性の向上を実現。

有限会社あさひ　高川 吉浩 氏（石川県白山市）

水稲・大麦・大豆の2年3作体系を導入し、土地利用率の向上を目指した営農体系を構築。加えて効果的な排水対策、診断に基づく適期・適正量追肥等の実施により、六条大麦の単収550kgを実現。

実需者からの話題提供

株式会社セブン-イレブン・ジャパン シニアマーチャンダイザー **山村 賢史** 氏

地域の優良な原材料を使用した「地産地消」に取り組んでいる。地域と共に食材を育て地域の活性化を推進。

株式会社新潟小規模蒸溜所 取締役社長 **堂田 浩之** 氏

県産六条大麦を使用したウイスキーを醸造し、輸出拡大にも取り組む。国産大麦の新たな需要を創出。研究機関と共同しウイスキー醸造用の二条大麦の開発にも貢献。

試験研究機関からの話題提供

・麦生産向上のための栽培技術及び品種の情報について

・農研機構中日本農業研究センター
グループ長 **長嶺 敬** 氏
上級研究員 **島崎 由美** 氏

・農研機構東北農業研究センター
上級研究員 **池永 幸子** 氏

質疑応答・意見交換

北陸農政局　申込方法は裏面をご覧ください

大豆プログラム（2/4）

はじめに ・全国及び北陸地域の大豆をめぐる状況について（農林水産省）

生産者からの話題提供

有限会社北井農産 代表取締役 **北井 博士** 氏（石川県白山市）

従来の高畝栽培に加え狭畦栽培を導入し、省力化と収量安定化を図ることで大規模経営を実現。柏野地区農業を考える会の取りまとめ役を担い、地域のトップランナーとして地域農業をけん引。

第52回（令和5年度）全国豆類経営改善共励会 全国農業協同組合中央会会長賞受賞。

農事組合法人ファーム小栗山 代表理事 **三沢 孝喜** 氏（新潟県見附市）

サブソイラーによる弾丸暗渠の施工や、アップカットロータリーによる耕耘同時畝立て播種の実施により十分な排水性を確保。その他、完全自動飛行ドローンなど積極的に新技術の導入を行う。

第49回（令和2年度）全国豆類経営改善共励会 日本農業新聞会長賞受賞。

実需者からの話題提供

登喜和冷凍食品株式会社 社長 **登内 英雄** 氏

昭和26年より高野豆腐を製造。輸入大豆の高騰による原料調達の不安から2024年より北陸産大豆（里のほほえみ）を使用開始するとともに供給量の増加を希望。

たけしま食品 社長 **竹島 茂** 氏

地元の大豆を使用した豆腐や油揚げを職人の手で作り続けることにこだわりを持ち、地元産大豆の品質の良さを消費者に理解していただくことを念頭に入れた商品づくりと開発を実行。

試験研究機関からの話題提供

・大豆生産性向上のための栽培技術及び品種の情報について

農研機構中日本農業研究センター グループ長 **大野 智史** 氏

質疑応答・意見交換

申込方法

下記のURL又は右のコードから申込フォームにアクセスして、必要事項を記入の上、お申し込みください。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/hokuriku/form/seisan/mugimame_form.html

※お申込みによって得られた個人情報は、厳重に管理し、本イベントの運営に限り使用させていただきます。

申込締切 令和７年１月23日（木）17:00

お問合せ先

北陸農政局 生産部 生産振興課　担当者：土井、石原　☎076 - 232 - 4302（直通）